

所蔵資料紹介

ベートーヴェンを読む

📖 京都府立図書館

令和2年9月3日作成

～読書で広がるベートーヴェンの世界～

ベートーヴェン生誕 250 周年を記念して、当館所蔵資料の中からおすすめの本をご紹介します。
読書を通して広がる、偉大な楽聖の世界をお楽しみください。

ベートーヴェンの手紙

偉大なベートーヴェンが、大切な人に向けて書いた手紙を読んでみませんか。



『音楽家の恋文』

クルト・パーレン／著 池内 紀／訳
西村書店 1996 年 (資料コード 1107895797)

「わが天使、わがすべて、わが身そのものである君よ」という言葉で始まるこの手紙は、恋多きベートーヴェンが女性たちに宛てたたくさんの手紙の中では、最も謎に包まれた存在です。その独特な文章表現は、まさにベートーヴェンらしい作風とも言えます。これは「不滅の恋人」へ宛てたもので、ベートーヴェンが亡くなってから机の中で発見されたといわれます。相手の女性が誰であったかは、たゆみない研究にもかかわらず解き明かされていません。

この本ではベートーヴェンをはじめ、ショパン、リスト、ドビュッシーなどの音楽家 27 人のラブレターを通して、その素顔を垣間見ることができます。



『注目すべき 125 通の手紙』

ショーン・アッシャー／編 北川 玲／訳
創元社 2014 年 (資料コード 1110409347)

ベートーヴェンは 20 代後半から聴力を失い始め、自殺を考えたことも何度ありました。音楽家として致命的と思われるこの苦難の中、32 歳の時に弟たちに遺書を残しました。この「ハイリゲンシュタットの遺書」を直筆で見ることができる一冊があります。本人の筆跡からは、その苦悩が伝わってくるようです。

この手紙を書いた後、ベートーヴェンは再び生きる意志を持ち、交響曲第 6 番「田園」など多くの名作を作曲しました。

この他に、時代を越えて人々の心を動かす手紙 125 通の訳文と解説、原本、関連写真が収録されています。

ベートーヴェンと料理

ベートーヴェンはどんな食生活を送っていたのでしょうか。



『音楽家の食卓』

野田浩資／著
誠文堂新光社 2020 年 (資料コード 1110985296)

音楽家たちの足跡をたどりながら、彼らが食したであろう食べ物や各地の郷土料理についてエピソードを通して紹介する一冊です。

ボンで貧しい生活を送っていたベートーヴェンが主に食べていたのは、ゆでたじゃがいも…。ところが、ピアノを教えることになったプロイニング家で今まで食べたことのない豪華な料理に出会います。その中のひとつ、ザワーブラーテンは、赤ワインで漬けて煮た牛肉料理。その写真はこの本の表紙にもなっています。他にもオムレツ料理や赤ワインを使ったスイーツなども紹介されています。レシピが掲載されているので、ベートーヴェンが楽しんだ味をぜひ再現してみてください。



『宮廷楽長(カペルマイスター) サリエーリのお菓子な食卓』

遠藤雅司／著 春秋社 2019 年
(資料コード 1111053490)

ベートーヴェンが友人に手料理をふるまったことがあるのをご存知ですか？

招待された友人たちは、なんと寝間着に身を包み、もじゃもじゃ頭に立派なナイトキャップをつけ、腰には青いエプロンをつけて、かまどで四六時中忙しく動き回るベートーヴェンの姿を見たとのこと。その料理の出来栄とは…。

この本は、ウィーンの宮廷楽長であったサリエーリと、弟子のベートーヴェンやシューベルト、周辺の人々にまつわるエピソードや食文化の歴史を楽しむことができます。オペラ作品に登場する料理や、周囲の人物が実際に食べた料理が紹介されています。

ベートーヴェンが聴こえる物語

ベートーヴェンの楽曲が作中で演奏される物語を紹介します。



「セロ弾きのゴーシュ」

『宮沢賢治コレクション 1』所収
宮沢賢治／著 筑摩書房 2016 年
(資料コード 1110704481)

宮沢賢治はクラシック音楽を好み、ときには借金をしてまでレコード蒐集にいそしんだそうです。集めたレコードは約 300 枚。特に熱心に集めたのはベートーヴェンで、交響曲は第 1 番から第 9 番まですべて所持していたほか、ピアノ協奏曲、ピアノ・ソナタなど多くを集めていました。友人と交響曲第 5 番「運命」に夢中になり、「運命が扉を叩く音だよ」と感激しあっていたとも言われています。

「セロ弾きのゴーシュ」には「第六交響曲」の練習をするシーンがあり、これが交響曲第 6 番「田園」を指しているとの研究があります。このことは当館所蔵の『宮沢賢治とベートーヴェン』（多田 幸正／著 洋々社 2008 年）に詳しく書かれています。



『蜜蜂と遠雷』

恩田陸／著 幻冬舎 2016 年
(資料コード 1110830740)

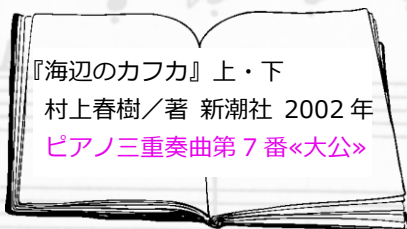
ピアノコンクールを舞台に、ピアニストを志す若者の才能と運命を描いた小説です。2016 年に直木賞、2017 年本屋大賞を受賞しました。

作中では、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第 3 番ハ長調、第 26 番「告別」第 1 楽章が演奏されます。

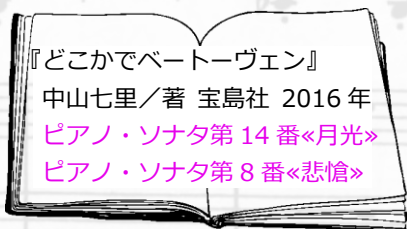
この演奏を、小説を読みながら楽しんでみませんか？府立図書館で利用できる「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」では、作中に登場する全 48 曲をストーリーに沿って聴くことができるプレイリストが公開されています。詳しくは下記をご覧ください。

なお、この小説のスピノフ短編小説集となる『祝祭と予感』（2019 年出版）も所蔵があります。

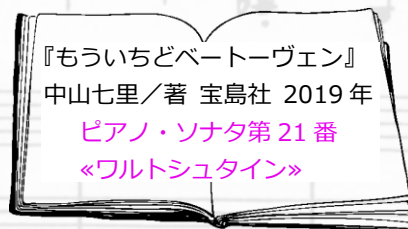
他にもこんな作品にベートーヴェンの曲が登場しています。



『海辺のカフカ』上・下
村上春樹／著 新潮社 2002 年
ピアノ三重奏曲第 7 番「大公」



『どこかでベートーヴェン』
中山七里／著 宝島社 2016 年
ピアノ・ソナタ第 14 番「月光」
ピアノ・ソナタ第 8 番「悲愴」



『もういちどベートーヴェン』
中山七里／著 宝島社 2019 年
ピアノ・ソナタ第 21 番
「ワルトシュタイン」

図書館で音楽をお楽しみいただけます

NAXOS MUSIC LIBRARY



「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」は、クラシックを中心に CD 約 12 万枚を聴くことができる音楽配信サービスです。2 階マルチメディア閲覧室で利用できます。

紹介した小説『蜜蜂と遠雷』に登場する全 48 曲を、ストーリーに沿って聴けるように並べたプレイリストが「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」で提供されています。

『著者・恩田陸さん監修「蜜蜂と遠雷」登場楽曲プレイリストのご案内』

(<https://ml.naxos.jp/news/617>) をご覧ください。

ベートーヴェンの楽曲が聴けるのは

「第一次予選」(<http://ml.naxos.jp/playlist/naxos/565622>) のプレイリストです。

そうだ、図書館で探そう



京都府立図書館

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町
TEL 075-762-4655 FAX 075-762-4653

